

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ホーム開設時に、職員が思いを込めて作った「5つのあい」(ふれあい、ささえあい、おもいあい、かたりあい、ひろげあい)のケア理念があります。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念はいつでも職員の目につくように食堂に掲示されており、実践に移しています。また研修生などに利用者が理念を説明する場面もあります。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の席上で理念について説明したこともあり、また、ご家族で作っている家族の会に職員が出席した際に説明することがあります。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ご近所とは通勤途上や散歩で顔が合えば挨拶するのは当たり前ですが、お隣の農家からおすそわけをいただいたり、近所のお子さんが遊びに来たりしています。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に加入しており回覧板が回ってきます。自治会、学区福祉の行事にも毎回必ず利用者が参加されます。小、中学校、保育園との交流も盛んで、学校行事に招待されています。</p>	

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域に向けた認知症についての学習会を開催しています。初めての試みであった昨年は農協の女性部の方々が対象でしたが、さらに裾野を広げて取り組みたいと考えています。</p>	○	<p>認知症に関する学習会の継続的開催を行う予定です。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の改善提案事項については職員会議などを通じて全職員で問題意識を共有しました。夜間入浴、ケアプラン見直し等のすぐに実施できることは取り組んでいます。他の法人の同業者との交流についてははまだ行っていません。</p>	○	<p>他の法人の同業者との交流の機会を外部研修時などではかかっていきたいと思えます。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>3ヶ月に1回のペースで利用者、家族、地域包括職員民生委員、消防職員、ボランティア、近隣住民のご参加を得て開催し、ご意見を伺っております。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>各種申請などで市町村や地域包括支援センターへ職員が訪問する機会が多々あり、そのなかでサービスに関する相談なども行っています。また市の介護相談員が毎月来て下さりその際相談した内容などを市に報告されています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員のなかに1名社会福祉士がおり、権利擁護事業や成年後見制度についての研修会に一昨年参加しています。ご家族への説明などは特におこなっていませんが、介護について話し合いのなかで情報提供は行っています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>関連法については市のパンフレットを活用し、職員で学習会を開催しました。</p>		

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書について詳細に説明するのは勿論ですが、契約までに積極的に施設見学などで質問にお答えするようにしております。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談員が月1回来られる他、ボランティアやお客様も多く、利用者が職員を介さず意見を言える環境をつくっています。また職員自身も利用者が直接不満が言える状況をつくるよう努めています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員異動や健康、金銭についての報告を随時行うのは当然として、毎月日報に基づき個人別の介護経過の報告書をつくり家族にお渡ししています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記し、契約時に説明しているほか、年4回の家族の会には必ず管理者が出席し、意見や苦情を承る体制を取っております。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度よりサービス担当者会議を毎日開催し、記録を残すことで全員の意見が運営に反映されるよう努めているほか、月1回の職員会議にて毎年度事業計画について協議を行っています。また雇用契約時に法人内の苦情相談窓口を明示しています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	上記サービス担当者会議のために職員と協議のうえで勤務シフトを変更したり、夜間入浴のために勤務時間をズラしたりということを行っています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職率の低下は、昨今の社会情勢上、最も心を砕いている事項です。異動については事業所でできる限りの配慮は行っているつもりです。		

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	効果のほどは検証されていないものの、法人で取り組んだ人事考課制度があります。また年度初めに各職員の研修計画を作成するほか、積極的に研修への参加を促しています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人の持つグループホームで利用者の相互交流や行事・研修の共催など頻繁な交流を行い、日誌やハットヒアリも毎日やりとりしノウハウの共有を行っています。他の法人のグループホームとは職員の個人的な交流に留まっています。	○	※チェック項目「7」参照
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	何でも話し合える明るくオープンな雰囲気づくりに心がけておりますが、管理者のストレスについては個人のストレスマネジメントに頼っている実情です。	○	同法人のグループホームの管理者同士で運営上の問題点について話し合う機会を設けようと考えています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	前述の研修計画に基づき職員の資格取得、各種研修の案内などを行うほか、回覧文書などで介護に関する考え方を紹介するなどモチベーションの維持に努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	特に形式ばらずに毎日の生活の中で本人の話をお聴きし求めていることや困っていることの把握に努めておりますし、施設見学に来られた方々には誠実にお話をお聴きするよう心がけております。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族との面会時にお話をお聴きする他、ケアプランについてご家族と話し合う機会を設け、困ったことや求めていることを把握するよう努めております。		

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	回答不能(チェック項目23との違いがよく理解できません)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	ご家族の意向もありますが、原則的にご本人が納得するまで 何度お越しいただいても対応させていただいています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームで一緒に生活していれば、喜怒哀楽を共に するのは当たり前ですが、あまりに関係が近くなりすぎて、 ぞんざいな関係にならないよう相互に注意しあえる雰囲気 を大切にしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	支援される一方の立場にはなりようがありません。むしろ、 どうすればご家族が負担を感じずにご本人と関わってくださ るのか、試行錯誤の毎日です。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	プライバシーなどの常識に抵触しない範囲で行うように努め て おります。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	かつての学友や、遠い親戚の方々が訪ねてこられたり、一緒 にお出掛けになることもありました。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るよう努めている	大変難しい事例もかかえていますが、孤立を防ぐべく最大限 努めているつもりです。		

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	かつての利用され、すでに亡くなった方のご家族が訪ねてこられることもあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	実施しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のフォーマットも一部利用しながらアセスメントを行っています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の引継ミーティングやサービス担当者会議のなかで状況の把握とその背景を模索する一方で、記録に残し、情報共有を行っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族とは当然話し合い、意見をお伺いして承諾を得ますし、ご本人からは毎日の生活のなかでニーズを把握すべく努めています。在宅のころのケアマネや医師の意見を伺った場合もその結果は反映させます。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施しています。 (昨年の実例では2ヶ月足らずで3回もケアプランの変更を余儀なくされた事例もあります。)		

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施していますし、実践や結果等の事実については個別記録に、気づきや工夫などの介護者の恣意が入る事項についてはサービス担当者会議録にと情報の内容によって記録を分けています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	回答不能(何を指して多機能性と言うか理解できません)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員は月1回、ボランティアは月2回、消防は年2回教育機関は各学校合わせて延べ年20回近くの交流が最低でもあります。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実例はありません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実例はありません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所前からのかかりつけ医にご家族が付き添って通院されていますが、情報の提供のためご家族からの要望に答えて報告書を作成したり、職員が同行したりしています。		

グループホームナイスライフいせだ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>基本的には上記43と同様ですが、新規に医師にかかられる場合には認知症に詳しい医師の情報を提供しています。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>月2回程度、同法人の看護職員が来訪し健康状態のチェックを行っており、健康管理上の相談などを行っています。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>ご家族からの要望があった場合に行っています。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>かかりつけ医にはご家族を通じてになりますが、重度化した場合にはできるだけ早い段階で情報提供を行い、方針の決定をサポートしています。またその際に必要となる情報は提供すべく努めております。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>24時間で対応できるしっかりとした地域医療システムがない現状で重度の方や終末期をグループホームで過ごしていただくとうと法に抵触します。志のある方々が自分達でリスクの一切を引き受けるなかで実施している事例を、実現に不可欠な法や制度の改正も行わずに「今すぐやるべき」と主張する人達には到底賛同できません。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>実施しております。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	実施しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	そうすべく努めております。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	チェック項目18の職員の確保との相克事項ですが、まずはご本人らしい暮らしを優先して考慮すべく努めております。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の服装や美容の状況についてご家族に早めに情報を提供するようにしております。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	尊厳に配慮するために、その時々のできることを見極め、その範囲において食事の各過程に参加していただいております。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康への影響を配慮しながら行っています。	

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	周囲には分からないようさりげなく声をかけるなど、実施しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月水金で時間を決めて行っていますが、希望があれば随時シャワー浴対応しております。また前回のご指摘を受けて、夜間の入浴も月3～4回程度行っています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	実施しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	変化する皆様の状況に合わせて日々試行錯誤しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお預かりして随時使っていただき、金銭の出入りは全て個人別の出納帳を作成のうえレシートを保管し、ご家族にいつでも確認していただけるようにしています。また、主に安心のためですがご本人が財布を所持されている方も多くおられます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や健康状態を勘案しながら行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回個別外出の機会を設けておりますし、ご家族と旅行に出かけられる方もおられます。		

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	実施しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実施しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前面が駐車場ということもあり、転倒や交通事故などの安全のために玄関に施錠しておりますが、希望があれば開錠し、職員が見守ります。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	実施しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	実施しています。(鉄の管理など)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	役に立ちそうな記事・事例は回覧し、職員間で話し合っています。		

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時のマニュアルは作成・説明し、事務所に掲示していますが、定期的な応急手当の訓練は行っていません。	○	定期的な応急手当の訓練を実施していきたいと考えています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回近隣の人々にも声をかけ、消防署の職員にも参加いただいで防災訓練を実施しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	実施しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	実施しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量、服薬時期を明記した服薬表を随時更新し、事務所に掲示しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	実施しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕2回、歯磨きを行っていただくように声かけや見守りを行い、必要な方の義歯の管理も支援しています。		

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事時に声を掛けるほかに2回お茶の時間を設けるなど、気を配っています。</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>法人の作成した感染症マニュアルがあり、常時手の届く場所に保管されている他、昨年は感染症に関する内部研修を実施しました。</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>食中毒予防の実施方法を書いたポスターを台所に貼り、日々目にしながら実践しています。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関前にベンチを置き、花を配するなどの配慮は行っています。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎月の季節の飾りつけなどを利用者と職員が自分達で作ることで居心地の良い空間づくりを行っています。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間にベンチやソファ、食堂の椅子、裏庭や玄関前のベンチなど思い思いの場所で過ごされますが、独りになりたいときは皆様居室に入られます。</p>		

グループホームナイスライフいせだ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険さえなければ持ち込みの制限は一切ありません。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	最低でも日に1回は換気していますし、温度・湿度の調節にも気を配っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計段階からグループホーム専用に設計されています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	状況が日々変化しますので試行錯誤の毎日です。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	厳冬期以外は夕涼みや日向ぼっこをよくします。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム ナイスライフいせだ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

何よりも重視しているのは理念の5つの「あい」にも現れている「つながり」です。食卓を囲んで利用者・職員が冗談を言い合って大笑いしたり、不安を口にされた方を他の利用者の方が慰めたりという光景を大切に毎日の生活を送っています。また地域の方々とのつながりも重要だと考えています。昨年度は保育園や小、中学校などから延べにすると100名近くの方が来訪される一方で、学校行事などに頻繁に招待されるなどの教育機関との交流が非常に活発でした。地域の運動会や文化祭、夏祭り、学区福祉主催の高齢者の食事会などの様々な行事に、毎回利用者ご自身が参加され、その際に声を掛けて下さる方々も多くおられます。念願であった地域の方々への認知症に関する学習会も開催にこぎつけるなど、設立当初より取り組んできた成果がようやく実を結んできた印象です。